

ありがとう

■ 楽曲データ

歌詞：高田敏子 作詞

楽曲：中田喜直 作曲

発表：仏教音楽研究所 1977年

初演：—

初出：『ありがとう』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

管理番号：M1973

■ 創作の経緯

「婦人の歌」として制作。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『ありがとう』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 作詞者・作曲者について

作詞の高田敏子（1914～1989）は、女性ならではの視点から綴る作風で知られ、「台所詩人」「お母さん詩人」と呼ばれました。彼女の詩には大中恩や三善晃など、多くの作曲家が曲をつけています。

中田喜直（1923～2000）は、現代日本を代表する作曲家のひとりで、作品は《雪の降る町を》《夏の思い出》など、枚挙にいとまがありません。仏教音楽の分野では、保育連盟制定の《幼児のおつとめ》、混声合唱組曲《そよ風の中の念仏》などがあり、本願寺派ともご縁が深い人です。

この《ありがとう》は、数ある作品のなかでも、作曲者自身がかつとも気に入っているもののひとつだったそうです。

◆ 歌いかた

①楽譜の指示にあるように、「心をこめて」歌いましょう。

②歌い出し（5小節目）の8分音符は、テヌートを活かして、たっぷりと歌い始めます。

- ③作曲者は、11小節目の最後ではブレス（息継ぎ）をせず、12小節目まで続けて歌うよう指示しています。注意しましょう。
- ④16小節目は元気よく歌い出しましょう。17小節目4拍目の4分音符が短くならないように気を付けて、18小節目へ続けます。
- ⑤18・19小節目は、強弱の変化をはっきりつけましょう。
- ⑥21小節目は、3拍目のあとでブレスが指示されています。また、この部分は音域が低いので、言葉を明確に発音しましょう。
- ⑦22小節目3・4拍目の上行音型はレガートに歌いましょう。

解説執筆：神谷慧（仏教音楽研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽
儀礼・研究室] 研究員 和歌山教区紀南組勝徳寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 7（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』
第132号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.